

社会学部報

年来の懸案であった社会学部の設置が関西学院理事会で決定したのは昭和34年の夏であった。9月末に設置申請を文部省に提出し、翌35年1月1日付で社会学部事務所を大学本館内に置き事務を開始した。1月20日付で文部省から設置認可を受け、2月20日に入学試験を行ったが、応募者は2465名（関西学院高等部よりの推薦者を含む）に達した。4月1日付で社会学部が開設され、同7日に320名の合格者を迎え開学式と入学式とを兼ね行い出発したのである。校舎は夏季休暇までは大学本館を使用したのが、9月12日新校舎の落成式と共に図書館裏の新

校舎に移転し、愈々文字通りの新学部となった。まだ周囲は整備されていないが、追々内容外観ともに立派になるであろう。

竹内愛二教授出発

第10回国際社会事業会議に出席その第11部会（Social Work in Rural Areas）の議長をつとめる為、また国際社会事業者連盟および国際社会事業学校連盟等の大会に出席の為、11月6日大阪から米国経由で出発された。なお日本社会福祉学会代表理事を退いた。

学 界 消 息

日本都市学会

5月東京都市センターホテルに大道教授は理事として出席した。

関西社会学会

5月28、29日神戸大学御影分校において第11回大会が開かれた。本学からは万成助教授が「現代日本の産業界の指導者の社会移動」について発表した。

日本心理学会

7月17日から4日間東京大学において第24回大会が行われ田中助教授が出席した。

共産圏研究国際会議

9月19日から6日間河口湖畔の富士ビューホテルでThe Third International Sovietological Conferenceが開かれ、海外からの正式参加者44名、日本代表15名で熱心な討議が行われた。丹羽講師はオブザーバーとして出席した。

社会心理学会

昭和30年有志の手によって発起され31年に社会心理学懇談会が発足したのであったが、35年10月14日本学部において第1回社会心理学会大会が開かれるに至った。田中助教授の努力は大なるものがあつた。万成助教授は「工場組織の有効性の比較研究」を発表した。

理論経済学会・計量経済学会

10月22日から3日間名古屋大学において大会がもたれ、丹羽講師が出席した。

日本社会学会

立教大学において10月30、31の両日第33回大会が開かれた。本学部から多数出席したが万成助教授は「現代日

本の産業界の指導者—社会的出身と移動」を、宇賀博助手は「マス・コミュニケーションと社会体系—ライレイの理論を中心として」を発表した。また「日本の経営」および「同族とその変化」の両シンポジウムが行われたが、前者で万成助教授は「日本の総営者の社会的性格」を報告した。今年は理事改選の年であったが、蔵内教授は会長を大道教授は理事の職を退いた。新会長は慶応大学の有賀教授である。なお蔵内教授は社会学部門を代表する唯一人の日本学術会議会員である。

村落社会研究会

11月3、4日愛知県蒲郡で「政治体制と村落—政治と農民」の共同課題のもとに第8回大会を開いた。余田助教授が参加した。なお村落社会研究会年報Ⅶ「政治体制と村落」が時潮社から出版された。

社会学部研究会

社会学部研究会創立総会を4月28日夜宝塚さくらにて行い会則および役員を決定した。

第一回研究会例回を6月17日にもち万成助教授が「現代日本の指導者第一次調査結果の概要」を報告した。

第二回例会を10月5日開き宇賀助手が「マス・コミュニケーションと社会体系」を報告した。

日本老年社会科学会

11月14日府立公衆衛生研究所で総会が開かれ大道教授は「老人の生活時間について」宿題報告をした。

国連阪神都市圏調査

新聞等で報ぜられたように今夏調査団が来日して調査を行ったが、大道教授は日本側チームの一員として参加した。

編集後記

1960年という年は、国際的にはアジア・アフリカグループの政治的抬頭が国連総会において象徴的に現われ、また日本経済は対外的な側面において貿易自由化の政策を迫られ、これが対内的には技術革新を中心とする産業の合理化を必然とし、国内の政治・経済・社会の諸構造に大きな変化を与えようとしている劃期である。

この年は、われわれにとっても忘れることのできない一大飛躍の時期であって、関西において初めての社会学部を成立せしめた喜びの年である。従来、文学部の学科として存在していた社会学科と社会事業学科とを母体として、蔵内数太・小関藤一郎両教授、田中国夫・山中良知・栃原知雄・西尾朗助教授、本

岡五男専任講師を新たに迎え、学部として再出発したのであるが、この機会にわれわれの研究態勢を整え、これを推進することを目的として関西学院社会学部研究会を組織し、この機関誌として「関西学院大学社会学部紀要」を発行することとした。これまでわれわれは「関西学院社会学」（第5輯まで）および「社会事業学」（第1巻）において研究成果を発表してきたのであるが、今ここに創刊をみた「社会学部紀要」はこれらに代るものであり、それ以上のものにするを期している。こしばかりの間は、年間2回の発行を予定しているが、これを批判・検討することによって読者がわれわれ研究会員を激励し、鞭撻されることを期待したい。

(余田記)

1960年10月30日 印刷

1960年11月5日 発行

編集兼発行人 大道安次郎

印刷所 協和印刷株式会社

京都市東山区東大路松原上ル
電話 京都 ⑥ 7131~3

発行所 関西学院大学社会学部研究会

西宮市上ヶ原一番町
関西学院大学社会学部内
電話 西宮 ⑤ 0912~8

御注文は前金にて、西宮市関西学院大学社会学部研究会へ御申込下さい。

一年分 送料共 600円

関西学院大学社会学部研究会々則

- 第 1 条 本会は関西学院大学社会学部研究会とよぶ。
- 第 2 条 本会は社会学および隣接諸科学の研究ならびに会員相互の親睦を計ることを目的とする。
- 第 3 条 本会は右の目的を達するために次の事業を行う。
1. 機関誌「関西学院大学 社会学部紀要」の発行。
 2. 研究会および講演会の開催等。
 3. 研究叢書の刊行。
 4. その他本会の必要と認める事業。
- 第 4 条 本会の会員は次の 3 種とする。
1. 名誉会員 本会の特に推薦するもの。
 2. 普通会員 本学社会学部専任の教授、助教授、講師、および助手。
 3. 賛助会員 以上の外申込のあったもの。
- 第 5 条 普通会員は年額 1,200 円、賛助会員は年額 600 円以上の会費を納めなければならない。納付済の会費は返還しない。
- 第 6 条 本会員および本学社会学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の購読費は年額 600 円とする。
- 第 7 条 本会に次の役員をおく。
1. 会 長 (1 名) 社会学部長をもつてあてる。
 2. 評 議 員 (6 名) 普通会員の中から互選し、本会の運営に当る。
 3. 編集、会計、庶務の各委員は評議員の中から互選する。
 4. 会計監査 (2 名) は、普通会員の中から互選する。
 5. 書記、社会学部事務長に委嘱する。
- 第 8 条 本会役員任期は 2 年とする。重任を妨げない。
- 第 9 条 本会会計年度は 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終る。予算、決算は総会の承認を得なければならない。
- 第 10 条 総会は毎年 1 回とし、本会の重要事項を議決する。臨時総会の開催を妨げない。
- 第 11 条 本会は事務所を本学社会学部におく。
- 第 12 条 本会会則の変更は総会の議決によらなければならない。

社会学部研究会々員

会 長	大道安次郎	L・B・グレーム
評 議 員	竹内愛二	定平元四良子
	藏内数太	嶋田ツヤ
	余田博通	万成博
	田中国夫	領家穂
	栃原知雄	西尾朗
	張光夫	本岡五男
会 計 監 査	杉原方知	倉田和四生
	山中良知	牧正英
書 記	藤井康雄	丹羽春喜
普通会員	小関藤一郎	国分康孝
	S・M・ヒルバーン	宇賀博

KWANSEI GAKUIN

SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

Vol. 1.

Oct. 1960

Contents

- Professional Social Work and Religion
with Special Reference to Evangelicalism A. Takeuchi
- Problems of the Social Responsibilities of
Modern Professional Managers T. Koseki
- Social Origins and Mobility of Japanese Business Leaders H. Mannari
- Area Analysis of the Geographical Distribution
of Buddhist Temples in the Kinki Region of Japan M. Ryoke
- A Functional Study of Progressive Attitudes with Reference to
Attitude on the New Japan-U.S. Mutual Security Pact K. Tanaka
- The Transfiguration of Soviet Economics
—the Development of Input-output Analysis in the U.S.S.R. H. Niwa
- Three Types of Psychological Novel T. Tochiyama
- Development of Structural-functional Theory
—the Work of Talcott Parsons (I) W. Kurata
- Task Roles and Social Roles in Problem-Solving Groups
—Results of Studies by Bales M. Maki
- Significance and Methods of Self-Awareness of Social Caseworkers Y. Kokubu

The Study Association of Sociology Department

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

Nishinomiya, Japan
